

観点1	基礎・基本の定着
観点2	主体的に学習に取り組む工夫
観点3	内容の構成・配列・分量
観点4	内容の表現・表記
観点5	言語活動の充実

教科名	技術・家庭科（技術分野）
第1推薦	2 東書
第2推薦	9 開隆堂

（技術・家庭 [技術分野]）各教科書の主たる特徴及び意見

発行者名	主たる観点	主たる特徴
2 東書	観点1	・学習のまとめの工夫として、章末の「学習のまとめ」が「学習を振り返ろう」「学習をしたことを確かめよう」「生活に生かそう」の3部構成としてある。学習内容の定着を自己評価し、確認できる工夫がされている。また、各小単元に「まとめよう」のコーナーを設け、学習の振り返りが細かくできるように工夫されている。
	観点2	・興味・関心を高める工夫として、各小単元に入るときに「考えてみよう」「調べてみよう」「やってみよう」「話し合ってみよう」という投げかけがされている。 ・章末のまとめや各章の単元内に「生活に生かそう」の項目やコーナーを設け、学習内容を深めたり活用したりする問いかけがされている。
	観点3	・ガイダンスとして12ページ、「材料と加工に関する技術」70ページ、「エネルギー変換に関する技術」52ページ、「生物育成に関する技術」40ページ、「情報に関する技術」56ページ。 ・「材料と加工に関する技術」において、「製図」に関わる学習内容が同じページに掲載されており、それぞれの図法の特徴が比較しやすく理解もしやすいように記載されている。 ・教科書の末尾に、「技術分野の学習を終えて」として、4領域のまとめや「技術」教科の学習と自分達の生活とのかかわりを考えさせる項目を4ページにわたって設け、コンピュータの使い方も12ページにわたって示されている。また、「防災手帳」も載せ「技術・家庭科」を生活に生かす工夫もされている。
	観点4	・学習内容を効果的に標記するためのマークが多用されている。「リンク」「他教科」「小学校」というマークで、他の学習内容や他教科・小学校の学習内容との関連を示している。また、「消費者」「防災」のマークがあり、自分の生活との関連が図られるようにされている。
	観点5	・デジタル作品の実習例では、プレゼンテーション・ビデオ編集・Webページ作成手順の紹介が、見開き2ページで示されている。また、その手順の「修正」段階では他生徒との相互評価ができるように、評価の視点が示されている。 ・各領域の最終章「評価・活用」では、学習した技術の内容を「プラス・マイナス面」で整理し、その結果を交流しあう「話型」も示されている。
6 教図	観点1	・学習のまとめの工夫として、章末が「まとめ」「章末問題」の2部構成としてある。学習内容の振り返りと自己チェックができるように工夫されている。
	観点2	・興味・関心を高める工夫として、各単元のところどころに「考えよう」「調べよう」「やってみよう」という投げかけがされている。

	観点 3	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス的内容として 6 ページ, 「材料と加工に関する技術」 70 ページ, 「エネルギー変換に関する技術」 50 ページ, 「生物育成に関する技術」 52 ページ, 「情報に関する技術」 56 ページ。 ・「材料と加工に関する技術」において, 「製図」に関わる学習内容が 3 ページにわたって図示されているが, 書き方の説明や図や文章記述はない。 ・教科書の末尾に, 4 領域に関わる「資料」が 8 ページにわたって示されている。
	観点 4	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容を効果的に標記するマークは主としては 4 種類である。学習内容の指示等に「調べよう」「やってみよう」「考えよう」という項目が設けられているが, 全ての小単元でそう示されているものではない。
	観点 5	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタルものづくりの実習例では, ビデオ編集・プレゼンテーション・Web ページ作成手順が 2~3 ページで示されている。プレゼンテーション作成では, 「評価シート」の例を示し, 生徒の相互評価ができるようにされている。
9 開隆堂	観点 1	<ul style="list-style-type: none"> ・学習したまとめの工夫そして, 章末の「学習のまとめ」が「学習をふり返ろう」「生活に生かそう」の 2 部構成とされている。振り返りは自己評価ができる工夫がされている。また, 各単元にも「ふり返り」のコーナーを設け, 学習のふり返りが細かくできるようにされている。
	観点 2	<ul style="list-style-type: none"> ・興味・関心を高める工夫として, 各小単元に入るときに「考えてみよう」「調べてみよう」「観察してみよう」「話し合ってみよう」「見つけてみよう」「観察してみよう」という投げかけがされている。 ・章末のまとめに「生活に生かそう」の項目を設け, 学習内容を深めたり活用したりする問いかけがされている。
	観点 3	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス的内容として 18 ページ, 「材料と加工に関する技術」 66 ページ, 「エネルギー変換に関する技術」 40 ページ, 「生物育成に関する技術」 36 ページ, 「情報に関する技術」 64 ページ。 ・「材料と加工に関する技術」において, 「製図」に関わる学習内容が 2 ページにわたって掲載されており, それぞれの図法の特徴が比較でき, 理解しやすく記述されている。 ・教科書の末尾に, 「進んで技術を評価し生活をよりよくする」として, 身の回りの「技術」や「技術」と自分との将来的なかわりについて話し合う項目を 6 ページにわたって設けている。また, 「資料」としてコンピュータの利用について 12 ページにわたって掲載されている。
	観点 4	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容を効果的に標記するためのマークが多用されている。「リンク」というマークで, 他の学習項目や家庭分野との関連が示されている。「豆知識」というマークがほとんどのページで使われ, 学習内容に関連があるちょっとした知識が得られるようにされている。「探求」というマークを用い, 学習内容を深めたり広げたりする問いかけがされている。
	観点 5	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル作品の制作・発表の実習例では, プレゼンテーションが見開き 2 ページで, Web ページと動画作品の 2 つ合わせて見開き 2 ページで示されている。特に, プレゼンテーション作成では, 「のぞましいプレゼンテーションとは?」として, 発表する内容や発表する方法について箇条書きで丁寧に示されている。